

大学の世界展開力強化事業（令和5年度採択）中間評価結果の総括

令和8年3月16日

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

1. 事業の趣旨

大学の世界展開力強化事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において平成23年度から開始された事業である。

令和5年度においては、民主主義や人権、法の支配といった基本的な価値観を共有し、経済安全保障も我が国にとって最も重要なパートナーであり、国際競争力の土台となる研究力が世界トップである米国を対象国として公募された。

本事業においては、①新型コロナウイルス感染症により停滞した留学を、オンラインも活用しつつ、質保証を伴った教育プログラムとして回復・伸長させるとともに、実渡航者数の増加に繋げる新たな国際教育環境の仕組を構築すること、②文理の枠を超えて課題解決に取り組むSTEAM教育や、成長分野であるDX、GXに資する人材を育成するプログラムを推奨し、予測不可能な時代に必要な文理の枠を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成や、今後特に重視する分野の人材育成に貢献し、①及び②の成果を具体的に我が国の大学に還元・展開することで、我が国の高等教育全体のポストコロナ期の国際競争力を高めること、また、本事業を通じ、国際化を進める多くの大学が活用できる最先端の国際教育交流の基盤を構築することで、国際的な環境で学修する日本人学生が飛躍的に増加し、日本人学生のマインドセットの変革にも寄与することを目的としている。米国を軸とした大学間交流を推進し、日米合同で事業を展開することで戦略的な国際ネットワークを草の根から強化することは、経済安全保障の観点からも極めて重要といえる。

上記を踏まえ、国公私立大学を対象に、「米国等との大学間交流形成支援」として、質の保証を伴った交流プログラムを実施する12件と、自ら交流を実施しながら、蓄積された知見や経験等を集約し、採択大学をはじめとした全国の大学等の活用に資するプラットフォームを構築する1件が採択された。

2. 中間評価

この度、事業開始から3年が経過したことを受けて、令和6年度末までの取組状況や目標の達成状況等について、令和5年度に採択された13件の事業を対象として中間評価を実施した。

結果は、A（「これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される」）が10件、B（「当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。」）が3件となった。

なお、本評価においては、Aが標準的な評定である。

中間評価を通じて認められた特徴的取組として、①パートナー大学等と事前に協議し、事業実施に向け十分な協議がなされていること、②COIL型教育を事前学習等に効果的に活用しつつ、実渡航に繋がる

仕組みの構築と、それを担う教員の拡充・強化に努めていること、③プログラムに参加する学生層の拡充及び、補助期間終了後の自走化に向けた確かな道筋を示していることが確認された。

具体的内容としては以下のとおりである。

- オンラインでの国際共修授業（COIL型教育）やJV-Campusを通じたオンデマンド講義の提供、日本語準備講座におけるマイクロクレデンシャル発行計画など、国内協力校とも連携しパートナー大学と相互の国際化に貢献するような事業が展開されている。
- 海外連携大学の強み・特色を活かしたCOIL型教育の充実と、同教育の運営を担当する教員の育成を一体的に進めるなど、今後の事業拡大に向けた取組が順調に実施されている。
- ハイブリッド型の交流において、必ず事前研修でCOIL型教育を導入し、渡航前に文化・歴史等の面から派遣先の理解を深めており、交流の内容が深まるような工夫が実施されている。
- 高校生との合同プロジェクトが実施され、高校生の進路意識の向上に加え、学生にも教育的効果生じている。
- 留学の機会に恵まれてこなかったマイノリティー家庭出身の学生や、高等教育第一世代の学生、米国のCommunity Collegeで職能プログラムに在籍する学生も含めて、多様な学生層にプログラムへの参加機会を提供する取組が行われている。
- 自走化を見据えた学生自己負担によるサマープログラムの開設など、収益化に向けた先進的な取組も実施されている。

一方で、令和5年度採択事業の中間評価時点における共通課題としては、①JV-Campusの活用および広報活動、②参加学生の外国語運用能力を強化するための仕組み、③不確実な事態に対応するための迅速かつ柔軟な対応体制が挙げられる。派遣・受入の更なる拡大や、他大学への情報発信・普及等においては、JV-Campusを活用した取組を拡大するとともに、広報活動にも注力して進めていただきたい。また一定の外国語基準力をクリアした日本人学生数等の数値目標が達成できていない点については、集中的・重点的な語学学習等の一層の努力と工夫が望まれる。

これらの課題を整理し、将来の我が国と相手国の大学間交流の更なる促進と発展に向け、不測の事態を前提とした多角的な対応体制のもと、引き続き積極的な事業展開に取り組まれることを期待する。

3. 終わりに

令和5年度採択事業においては、主な対象国である米国の政治状況に加え、渡航費を始めとする物価の高騰や為替等の大きな変化・変動等が各プログラムに様々な影響を及ぼした。このような状況下で、各プログラムにおいても、様々な困難が発生したが、本事業の目的である質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルとなるべく、今後も目標達成に向けて着実に取組を推進していくとともに、評価結果に付された本委員会からの意見や指摘を踏まえ、更なる改善・発展に努めることが求められる。また、補助期間終了後の自走化に向けた環境整備や、本事業の採択大学以外の大学に対しても実施状況を共有し、成果やノウハウの横展開に努めていただくことで、地球規模における大学・学生間交流を通じ、本事業が目的とする国際的な高等教育のネットワークの拡大推進に大きく寄与することを強く期待する。

大学の世界展開力強化事業（令和5年度採択）中間評価結果一覧

設置区分	整理番号	大学名（代表大学）	事業名	評価
国立	AA01	筑波大学	インクルーシブなスマートソサエティを創成する国際スタートアップ人材の育成	B
国立	AA02	東京外国語大学	太平洋を「架橋」するブリッジ・パーソン養成プログラム	A
国立	AA03	東京芸術大学	STEAM教育を活用した情報メディア革新時代の日米映像クリエイター育成	A
国立	AA04	金沢大学	多層型日米連携協働教育プログラムによる次世代グローバル人材育成	A
私立	AA05	信州大学	地域STEAM教育に関する国際共修人材育成プログラム	A
国立	AA06	名古屋大学	微分型成長を重視した分野横断型日米協創人材育成	A
国立	AA07	神戸大学	「食」を通して持続可能な世界を実現するグローバル人材育成のための異分野共修型国際プログラム	A
私立	AA08	広島大学	AI時代の未来を拓く日米グローバル人材育成プログラム	A
国立	AA09	○宮崎大学、南九州大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学	地域と世界を結ぶ「知」の循環：日・米・台・韓の地域からGXへ挑むグローバル人材育成事業	B
国立	AA10	琉球大学	インターアイランド・サステナビリティ教育プログラム	A
私立	AA11	○東日本国際大学、福島工業高等専門学校	未来へつながるコミュニティを創る日米大学間復興創生交流事業	A
私立	AA12	関西国際大学	次世代DX環境における安全・安心な社会基盤構築とホスピタリティ・ビジネスの展開	B
私立	AB01	○関西大学、東北大学、千葉大学	Blended Mobility Project (BMX) で生み出す「Society5.0人材」の育成とそのインフラの創出	A

参考：評価区分

S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
A ⁻	これまでの取組を一部改善することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
C	これまでの取組状況等に鑑み、目的の達成が困難な取組があると考えられ、成果を見込めない取組については縮小・廃止し、財政支援規模の縮小が妥当と判断される。
D	これまでの取組状況等に鑑み、事業目的の達成は著しく困難と考えられ、財政支援の中止が妥当と判断される。